

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:8.

ICU看護師による術前訪問時の患者のニーズ

横山 直人

ICU看護師による術前訪問時の患者のニーズ

旭川医科大学病院 ICUナースステーション ○横山直人

【目的】我が国の医療を取り巻く環境は少子高齢化、医療の進歩等により日々変化しており、高齢でICUに入室する患者も増加傾向にある。B病院では予定の手術後、ICUに入室する患者を対象にICUの環境、手術等のイメージ化を図ることを目的として術前訪問を行っている。しかし、入室した患者からは「手術前のイメージと違った」という反応がしばしばみられていた。このことから手術前の患者が得たい情報を提供できていないのではないかと疑問に感じた。そこで本研究では術前訪問時の手術前の患者のニーズを明らかにする。

【研究方法】1. 調査方法：術前訪問記録より患者のS情報を抽出し、患者のニードを分析した。
2. 研究対象：2017年1月1日から6月30日の間に予定の手術後、ICUに入室した患者でICU看護師が術前訪問した患者計285名。3. 倫理的配慮：本研究は所属施設の倫理委員会で承認を得た。

【結果】術前訪問記録より逐語録を作成し、66のコード、14のサブカテゴリー、6のカテゴリーが抽出された。また、身体面（33.7%）、持参物の情報(18.1%)、疼痛管理の保証(15.5%)、手術後情報（14.2%）、家族との接近(10.3%)、特殊環境のイメージ化(7.7%)の順で患者のニーズが高いことが明らかになった。以下〈〉をカテゴリー、《》をサブカテゴリーとする。

〈身体面〉は《術後に気になる身体状態》、《皮膚トラブル》、《身体的特徴・症状》、《入院した時の苦しかった経験》、〈持参物の情報〉は《必要物品の再確認》、《物品の準備期間》、〈疼痛管理の保証〉は《疼痛の程度》、《疼痛に対する対処方法》、〈手術後情報〉は《手術について》、《手術後の経過》、〈家族との接近〉は《面会方法》、《家族背景や家族支援》、〈特殊環境のイメージ化〉は《ICUの環境》、《ICUへの要望》のサブカテゴリーから構成されていた。

【考察】〈身体面〉ではサブカテゴリーからも患者が様々な背景や疾患を抱え治療を行っていることがうかがえる。疾患を有しながらも治療を行っている現状から、患者が自己の身体状態への看護師側からの配慮のニーズがあることが示唆された。そうした思いが〈身体面〉へのニーズとして表れていると考える。〈持参物の情報〉では術前訪問時に多くの時間を割いている現状がニーズの高まった要因としてあげられる。また、術前患者の不安の表れが持参物への不安として表れている可能性がある。〈疼痛管理の保証〉では手術患者にとって疼痛はイメージ化しにくく、抽象的なものである。疼痛には個人差があり、イメージ化が困難であるためにニーズがあると考えられる。〈手術後情報〉では患者の前日入院の増加や術前の多忙な状況に加え、高齢の手術患者の増加などもあり手術について十分に理解できていないことが考えられる。その状況下での術前訪問の実施が手術後情報についてのニーズが高まった要因として挙げられる。〈家族との接近〉ではICUにおいても家族からの身体的・精神的支援は必要不可欠である。ICUという特殊な環境や急性期であっても家族からの支援が得られるのかという患者の心理がニーズの高さにつながったと考えられる。〈特殊環境のイメージ化〉ではICUに入室経験のある患者からはニーズがあった。しかし、イラストやパンフレットだけのイメージ化が困難であることがニーズの低さに影響したと考えられる。

【結論】1. 術前患者のニーズとして身体面、持参物の情報、疼痛管理の保証、手術後情報、家族との接近、特殊環境のイメージ化のニーズがあった。
2. 過去の経験から生じる不安や身体的特徴・症状といった患者の情報を術前から看護師が理解し示すことで患者への安心感につながる。
3. ICUという特殊な環境であっても安全・安楽の保証を患者に提示することが重要である。